

電気経営分析システムなど提案 都築電機 名古屋で水産卸向けセミナー

都築電機は22日、名古屋市場本場で水産卸業者向けセミナーを開いた。中部・北陸地区の卸ら20人が出席。同社の経営ソリューションシステム「ManagingM aster」などを紹介した。都築電機の江森勲常務はプライベートブランドのさらなる浸透、食の安全・安心の一層の取り組み、経営・事業活動の「見える化」の取り組み強化をコンセプトに挙げ、「ベストパートナーを目指し頑張りたい」とあいさつ。協力するみなと新聞が「戦略型卸の起点と展開」と題し講演した。

「ManagingM aster」は売り上げ、利益や在庫状況、販売先の情報、売掛金など経営全般にかかわる経営層向けの情報システム。マウス一つで操作でき、多岐にわたる集荷、販売状況、利益率から予算比、前年比まで、経営戦略を立てる上で必要なデータを直感的に短時間で取り出せる。セミナーでは実際に画面を操作しながら、経営上で必要な情報を取り出す手順を説明。集荷、販売の両方向について、

倉庫連携・現場入力での効率化を紹介。冷蔵庫の出入庫などの情報を市場システムで一元管理することにより、迅速な在庫指示や在庫確認、棚管理ができる。

また、今後の展開として、活魚部門での取り組みを紹介。接待費などの管理にも活用できる会計

予算・実績・過不足・前年比、魚種、出荷地、出荷者、売り上げ、取扱量、粗利率、販売先、担当者などの細かな分類で、販売状況を確認できる特長を紹介した。

新たな提案ではオープン系トータルシステムの冷蔵



直感操作の「ManagingM aster」など解説

システム連携オプションを説明した。特別講演した富士通総研の喜多川学シニアコンサルタントはリスクの伴う市場業務に向けたリスク管理の強化方法などを提案した。